

研究課題： 「華僑高齢者のニーズ・アセスメント：横浜中華街とその近隣地域の
高齢者福祉・介護サービスの在り方と街づくりの創造に関する研究」

代表研究者： 陳礼美 （関西学院大学 人間福祉学部 准教授）

1. 研究の背景と目的

近年では、文化的に異なる集団に属する人たちがお互いを認め合い、相互関係を築く「多文化共生社会」の創造が推進されている。しかし、多文化共生への道のりは容易ではなさそうだ。「中国人の考え方や文化の違いからコミュニケーションが上手くいかないことがある」や「定期訪問（民生委員）しても話ができない」など多文化・多民族化地域だからこそある言語と文化の違いから生じる問題も報告されている（横浜市中区社会福祉協議会、2006）。

現在、日本における多文化共生社会に向けて、エスニック・マイノリティーの生活問題についての研究は限られている。そしてその中でも高齢者を対象とした福祉の在り方と確保について論じる文献や実践に大切な実証研究の数は少ない。

高齢化が進む日本において、様々な文化や価値観を持つ高齢者が増えることは間違いない。多文化共生が進む日本人を主流にした今までの研究や現況のサービス・制度について適応性を確認するとともに、これからの多文化に対応できる地域福祉の在り方も含めて検討する必要があると考える。

本研究は、日本を代表するエスニック・コミュニティの一つ、横浜中華街の華僑・華人高齢者のニーズを把握し、横浜中華街を含む地域の人たちと共に地域の福祉・介護（介護予防）サービスのあり方や高齢社会に向けての街づくりの方法について、地域主要団体、地方行政、地域居住者との共同作業によるエスニック・コミュニティのモデルプランを提案することを研究目的としている。

2. 研究計画と方法

表 1 各研究の基本構成と回収状況

研究名	①有識者による華僑・華人高齢者のニーズ研究
研究対象者	横浜中華街まちづくり協議会 23 団体の代表者
抽出元・ 抽出方法	平成 22 年度横浜中華街まちづくり協議会 23 団体の名簿から抽出、有意抽出式（対象者は 65 歳以上または家族が 65 歳以上の方）
研究方法	フォーカスグループ、デルファイ
研究期間	フォーカスグループ：平成 21 年 10 月 29 日～10 月 31 日 デルファイ：平成 22 年 2 月 4 日～4 月 4 日
研究項目	1. 回答者の基本属性 2. 家族等の状況 3. 高齢者の健康 4. 介護・介護予防に対する意識 5. 高齢者の生活における手助けの必要性 6. 高齢者の社会参加の取り組みと弊害 7. 将来の生活に対する考え方 8. 地域に対する意見・要望
対象者数	フォーカスグループ： A: 対象者数： 43 名 B: 参加者数： 32 名 C: 回収率： 74% (C = B/A×100)

	デルファイ： A: 対象者数: 43名 B: 参加者数: 38名 C: 回収率: 88% (C = B/A×100)
--	---

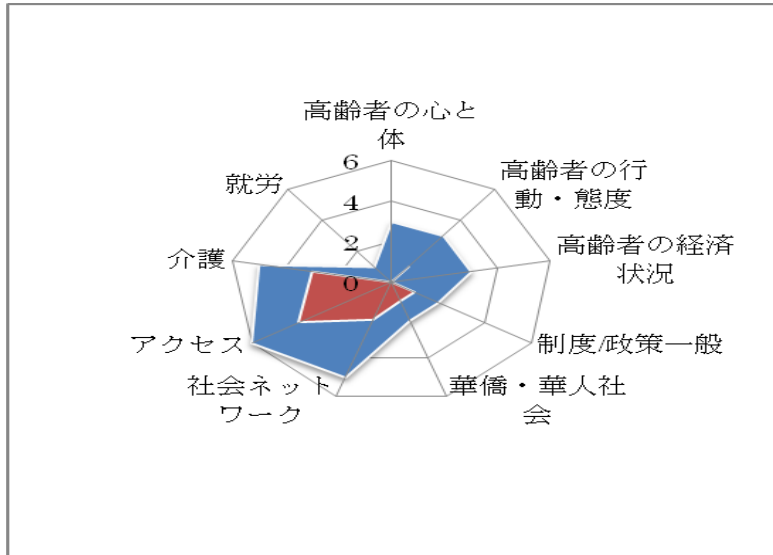
研究名	②華僑・華人高齢者の生活実態・問題研究
研究対象者	横浜在住の華僑・華人 60 歳以上
抽出元・抽出方法	平成 22 年度横浜中華街まちづくり協議会 23 団体の有識者に紹介された中から抽出、雪だるま式
研究方法	対面インタビュー
研究期間	平成 22 年 5 月 24 日～22 年 12 月 5 日
研究項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回答者の基本属性 2. 家族等の状況 3. 高齢者の健康 4. 介護・介護予防に対する意識 5. 高齢者の生活における手助けの必要性 6. 高齢者の社会参加の取り組みと弊害 7. 将来の生活に対する考え方 8. 地域に対する意見・要望
対象者数	対象者数: 11 名

研究名	③横浜中華街社会資源研究
研究対象	横浜中華街にある社会資源
研究方法	フィールドワーク
研究期間	平成 22 年 12 月 25 日～22 年 12 月 29 日
研究項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康資源 2. 福祉資源 3. シルバービジネス資源
対象	横浜中華街（横浜市中区山下町）

3. 研究結果： 華僑・華人高齢者の問題

横浜中華街の有識者の皆さんの一致したご意見（図1）を最も重要度が高い問題としてまとめたものが次の3点である：(1) 買い物やサービス等へのアクセスと利用について、(2) 介護への不安について、そして(3) 社会とのつながりについて。

図1 華僑・華人高齢者の課題の数比較



買い物やサービス等へのアクセスと利用について

- (1) 買い物が不便で困っている。
- (2) 言葉や文化の違いが理由で、福祉・医療制度の利用が難しい。
- (3) 中華街の施設や店舗へのアクセスが難しい。
- (4) 公的介護保険などについての情報が不足している。
- (5) 日本国籍・在留資格がないため公的サービスや保障が受けられない。
- (6) 医療費が高くて医療サービスの利用が難しい。

介護への不安について

- (1) 華僑・華人高齢者ケアに適切な人材が不足している。
- (2) 介護をしない家族、老いの準備をしない高齢者が増えている。
- (3) 老老介護の負担を背負っている高齢者がいる。

華僑・華人社会とのつながりについて

- (1) 中華街には元気な高齢者が集う場所が少ない。
- (2) 「閉じこもり高齢者」がいる。

4. おわりに

華僑・華人コミュニティーの今後の課題として3つの主要ニーズがわかったが、それを解決していくためには街の社会資源やストレンクス（強み）を知ることが重要だと考える。区役所、社会福祉協議会（区社協、新山下ケアプラザ）、自治会（町内会）、地域の企業、まちづくり団体協議会、研究者との連携によるエスニック・コミュニティーのモデルプランへ向けて下記の活動を行った：

「中華街で歳をとった人、お店もできないと、貸しちゃいます。[その後は]自分が行くところないから、いつもこの辺でウロウロして、小公園へ座ったり、山下公園座ったり、それでもなかなかそこから辺同士でもそういう人が少なくなってきたから、自分から老人ホームへ行くと[言って]老人ホームへ行った人もいます。」70代男性とのインタビューより

「老後は正直云って心配。これから、この社会は華僑社会だとしても、どこ頼っていいかわからない。例えば華僑総会を頼っても、結果的には日本の区役所とか市のほうに行くようになるし、どっちにしろね。で、どこへ行っていいかわからないから、今はそういうことは考えてもない。考えてもしょうがない。」70代男性とのインタビューより

「子どもらは上海に行っているみたです。アブ - [おばあちゃん]一人残してそこにいますよ。私たちと会話するのが好きみたいでね。やっぱり、みんな忙しいので、誰でも会話やってくれると、ものすごく喜ぶみたいで、なるべく会ったら何か少しなるべく時間をかけて彼女と話してるんですけども。そういうこともあって、やっぱり日本の老人は結構淋しいんだなあという感じがするんですよ」30代男性とのインタビューより

- (1) 実行委員会の設立
- (2) 社会資源マップづくり
- (3) 表 2 にあるストレングスを明らかにし、委員会で実証的取り組みを考える

以上の活動を踏まえ、本研究の過程で街のステークホルダーをメンバーとした「華僑・華人シニアライフ委員会」を設立し、委員会主催の最初の事業として「太極拳&早餐」を毎週土曜日の朝に行うことになった。本事業は、太極拳という運動だけが目的ではなく、高齢者が持つ様々な目標を実現できる取り組みと捉えたものである。また、華僑・華人高齢者のニーズに応える事業を創るにあたって、エスニック・コミュニティーのストレングスを活かすことを踏まえたものである。今後とも、エスニック・コミュニティーの独自性を活かす地域福祉と街づくりの創造を進めていきたい。

表 2. 華僑・華人コミュニティーのストレングス（強み）の一部（例）

<p>個人レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 華僑・華人高齢者が抱えている問題の多くは日本社会にある問題と共通である。 ● 貯蓄や収入など自助努力で生計を立てる人が多い。 ● 家族の絆が強い。 ● 日本社会に同化している高齢者がいる。 ● 高齢期も仕事を続ける高齢者が多い。 ● 高齢期の課題について関心が高まっている。 <p>コミュニティーレベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同郷会や校友会などのメンバーシップ型組織がいくつも存在する。 ● コミュニティーの自立の歴史が長く、経験も豊富である。 ● 「見えるコミュニティー」が存在する：「横浜中華街は故郷である」 ● 二つの中国に関する政治的分裂意識が薄れてきている。 ● 資源が豊富である（例、コミュニティーの中には集合施設が幾つかある）。 ● 「横浜中華街」としてのまちづくりへの取り組みは進行中である。 <p>政策、制度レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中区地域福祉保健計画第 2 期（平成 23～27 年度）第 2 地区は「世代間、障害者、外国人などとのネットワークづくり、交流ができる街」を目標設定している。 ● 第 4 次横浜市地域福祉活動計画（平成 22～25 年度）は地域における活動の充実と協働の仕組みづくりを目標にしている。 ● 介護施設やサービスなどが充実している。
--